

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和3年度～令和7年度）
研究開発課題名	超高感度CE-MS技術に基づくミクロスケール薬物動態評価プラットフォーム
代表機関名	九州大学
研究開発代表者名	川井 隆之

総合評価：良い

【評価コメント】

本研究は、約 1,000 倍の高感度化を達成する LDMS 濃縮法を開発し、LC-MS と同等以上の再現性を有し、超高感度かつ堅牢な薬物動態分析技術を確立した点が評価できる。また、課題間連携において、様々なシーズに対して有用なデータを提供し、研究開発の推進にも積極的に貢献した。これらの成果により、本技術が従来の薬物動態分析法では評価が困難であった微量試料の解析を可能とし、創薬研究や DDS 開発の加速に資する基盤技術となることが期待される。

今後は、構築した測定手法の検討をさらに進め、分析対象として適用可能なシーズの範囲や条件を明確化することで、本技術の有用な点を具体的に提示されることを望む。また、本試料濃縮法は合理的な動作原理と高い発展性を有していることから、実用化・社会実装に向けてバリデーション方法を確立し、一般化された標準的分析技術へと発展させることを期待する。

以上